

# 第2回 ChatGPT等の生成AIに関するアンケート 調査結果概要

河合塾では、2023年9月、標記のWEBアンケートを実施しました。ご多忙の折、ご協力いただいた皆様に厚く御礼申し上げます。

本資料では、高校の教員の方の結果に着目して、結果の概要を報告いたします。

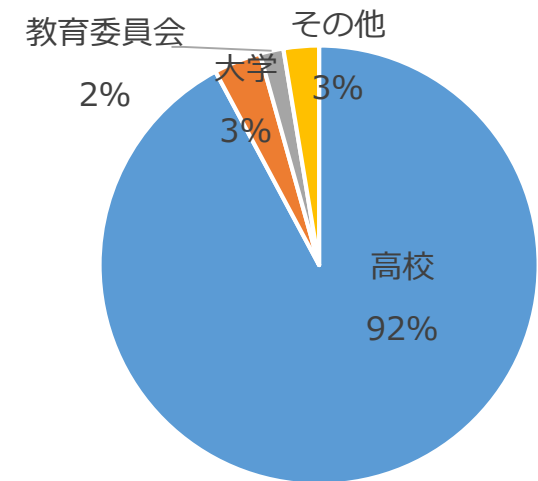
**河合塾**

対象 教育関係者  
回答数 115 件  
実施方法 WEBアンケート  
実施期間 2023年9月4日～18日

## 設問

1. ご所属（勤務先の学校種別・ご職業など）
2. ご自身は、生成AI（「ChatGPT」などテキスト生成AIや画像生成AI）を利用したことがありますか。
3. 生成AIの利用や取扱いについて、文部科学省から、初等中等教育へ「暫定ガイドライン」（1）が通知されたり、大学・高専に対し「教学面の取扱いについて」（2）の周知がされたりしています。（1）または（2）をご覧になったことがありますか。
4. 生成AIの利用に関して、所属する組織では方針は出ていますか。
5. 4.で、「出ている」と回答した方に伺います。示された方針や検討の方向性について、近いものを選択してください。
6. 生徒・学生が利用することについてのお考えや、実際の活用例等をご自由にお書きください。
7. 教職員が利用することについてのお考えや、実際の活用例等をご自由にお書きください。

## 回答者のご所属（n=115）

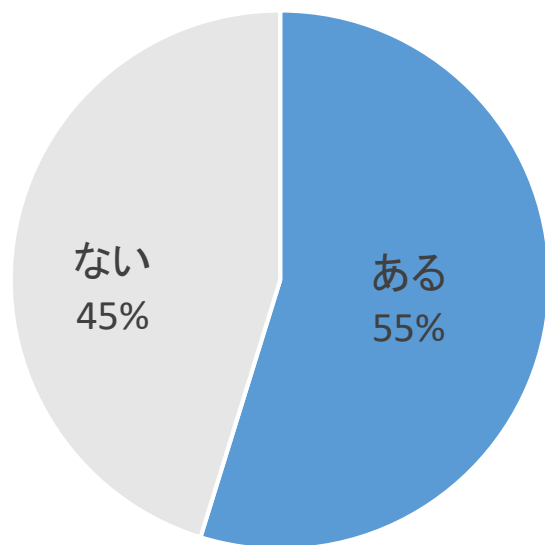


※「高校」には中等教育学校含む

(1) 「初等中等教育段階における生成AIの利用に関する暫定的なガイドライン」（2023/07/04通知）  
(2) 「大学・高専における生成 AI の教学面の取扱いについて」（2023/07/13周知）

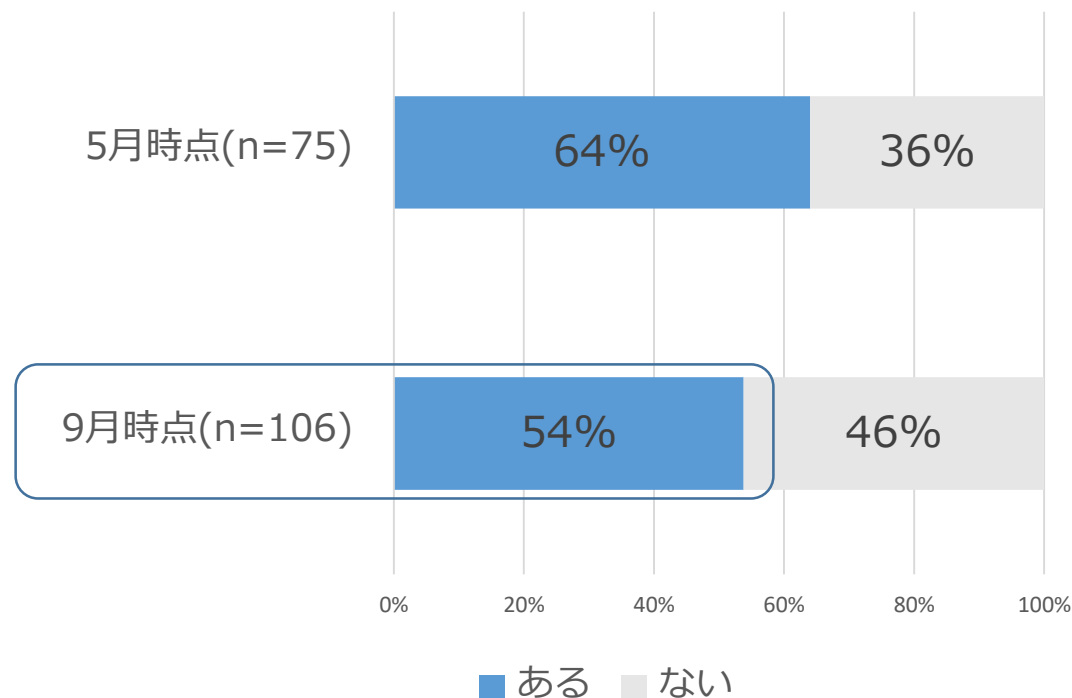
生成AIを利用したことが「ある」は約6割。高校教員は、5月に実施した第1回調査から引き続き、回答者の半数以上が利用したことがあると回答した。

生成AIの利用 (n=115)



[高校教員のみで集計] 生成AIの利用

※「高校教員」には中等教育学校教員を含む

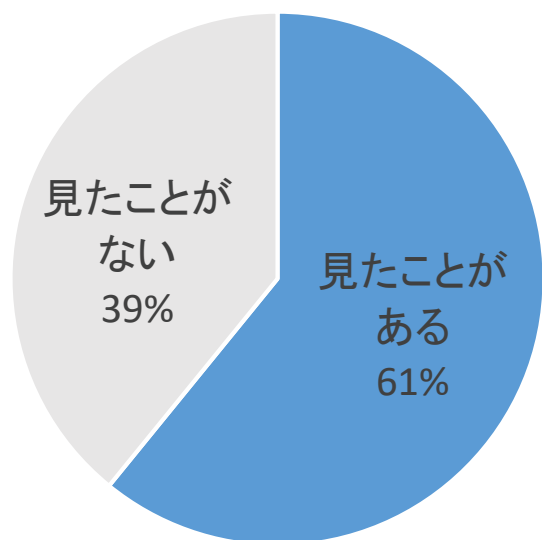


### 設問3 文部科学省「生成AIの利用に関する通知・周知」について 河合塾

生成AIの利用に関する通知（1）または周知（2）を約6割が見たことがある。

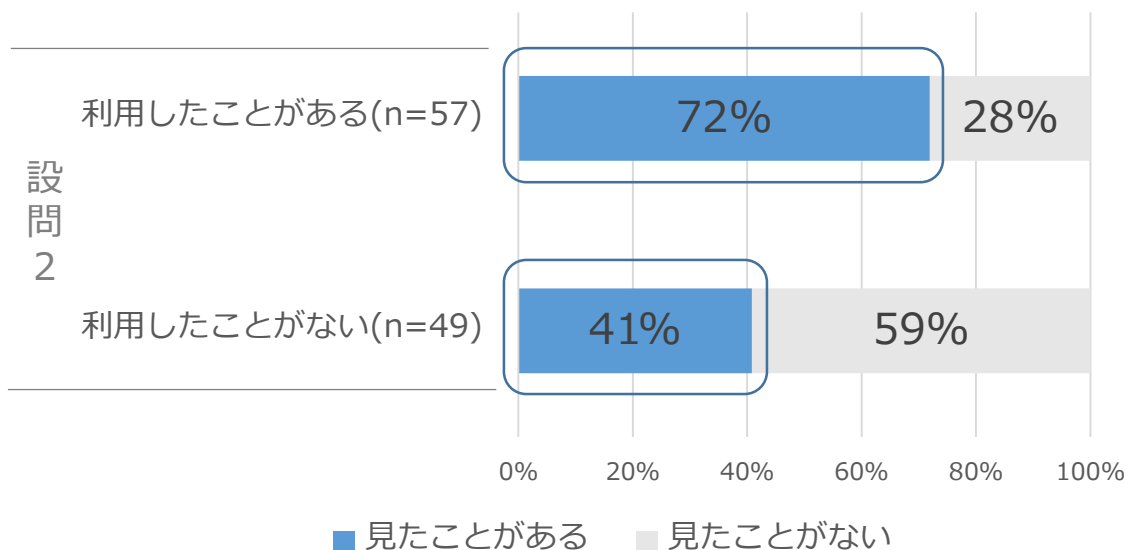
高校教員の生成AI利用者の約7割、未利用者の4割が、周知・通知を見たことがあると回答。

通知・周知を見たことがあるか  
(n=115)



[高校教員のみで集計] 生成AIの利用と通知・周知

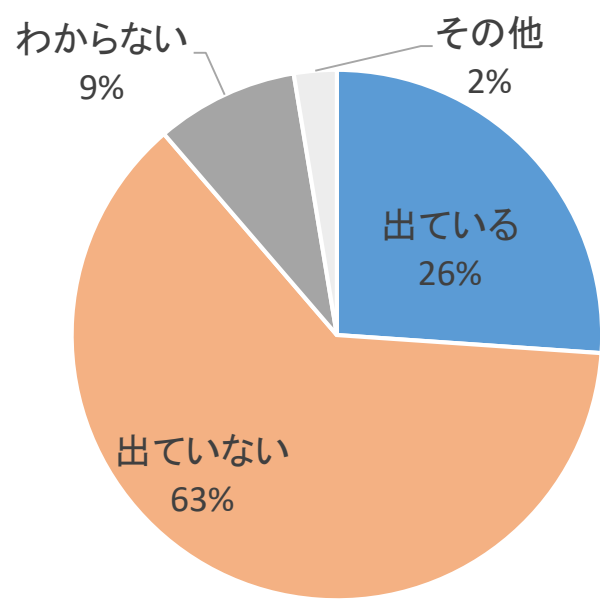
※「高校教員」には中等教育学校教員を含む



- (1) 文部科学省「初等中等教育段階における生成AIの利用に関する暫定的なガイドライン」（2023/07/04通知）  
(2) 文部科学省「大学・高専における生成AIの教学面の取扱いについて」（2023/07/13周知）

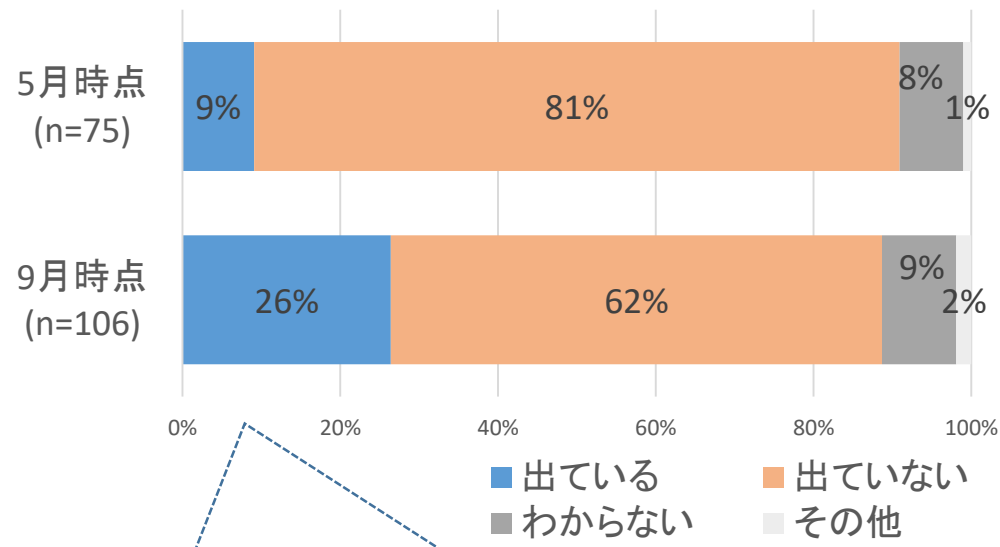
方針が「出ている」が約3割。方針が出ている高校の割合は、5月時点に実施した第1回に比べて高い。「出ている」と回答した高校教員にその方針の方向性を聞いたところ、「ルールを設けず留意しながら活用」「ルールを定め、その範囲内で活用」に二分された。

利用に関する方針(n=115)



[高校教員のみで集計] 利用に関する方針

※「高校教員」には中等教育学校教員を含む



■ 方針の方向性

|                        |     |
|------------------------|-----|
| 積極的な活用を勧める             | 1件  |
| ルールを設けず、問題点等に留意し活用を認める | 12件 |
| ルールを定め、その範囲内での活用を認める   | 13件 |
| 利用を禁止する                | 2件  |

「今後、生徒が利用する流れは止められない」といったコメントが複数寄せられた。

「参考として」「情報の真偽や著作権等に留意しながら」利用させるといった内容や、具体的な実践例に関する記述があった。一方で、思考力や表現力などの低下につながるなどの懸念の声もある。

### ◆今後の生徒が利用する流れは止められない

- 生徒の利用を排除することはできないだろうし、今後使えないといけなような社会情勢になることも考えられるので、どのように使わせるべきなのかを考えていくことが望ましいと考える。
- 禁止や制限をかけても、生徒の活動全てを見ることはできないので、実効性に乏しいと思う。生成AIによる成果か否かの見分けが難しいという指摘もありますが、読書感想文のような従来型の課題を改めていく必要に迫られているのだと思います。生成AIの正誤を見分ける力や倫理的な判断を必要とするなら、その力を育成するための教育が教員、学校に求められているという考え方でないと、どんどん取り残されてしまいます。
- 生成AIと無縁に生きていくことは考えづらいと思われるため、生成AIがどういうもので、どういう特徴をもち、何に注意すべきかを知るために、多くの科目で授業の一環として使ってみるのが大事だと考えています。
- 学校として「学びのツール」としての姿勢をまとめ「ガイドライン」を生徒及び保護者に発信しました。18歳になっていない場合、保護者の許可が必要である項目があるが、学生が利用を促した場合に法律に抵触するか、といったことなども検討した。基本的には「禁止」＝蓋をすることはできない出来事と考える。それよりかは、cleverな使い手にすることが大切。
- 技術の進歩と普及を考えると、生徒の利用は止められないと考え、目下、「参考として利活用する」「利活用の際は、他者への配慮や著作権等に十分配慮して、正確な内容かどうか他資料等で確認しながら慎重に扱う」程度のことを生徒に連絡して、授業や課題処理、出願書類の参考にしている生徒がいる程度です。ただ、まだAI自身の回答例サンプルが不適切な場合も多く、本校生徒はそれ程ツールとして重んじてはいない状況です。
- 今後、社会では避けては通れないと思うので、ツールとしての使い方を探究などで主体的に活用させるべき。

### ◆参考として活用

- 生成AIに全面的に頼ることはしないで欲しいが、とっかかりとして参考にし、間違いなどをしっかり訂正したうえで、自分の形にしていくことはひとつの手法かと思う。ただし、いつかは自分だけで書き上げられるように成長していかなければという意識を持っていなければ意味がない。
- 調べ方のアドバイスを貰うのに使用する程度が良いと思います。調べ方も試行錯誤することが大事だと思いますが、生成AIの使用はもう止められないでしょう。
- 議論の起点づくりとしてのアシストの価値はあると考えます。
- 生成AIが人間の創造的な活動に有益になるようにcoパイロットとしての利用を促進すべきであると考えます。
- 個人的な意見ですが、作成したものを鵜呑みにせず「参考」にする程度であれば使用も可、と考えます。自身が文章で述べたいこと、伝えたいことと齟齬がないかを確認させる必要があるかと考えます。

### ◆情報の真偽や著作権等に留意しながら活用

- 気軽に利用できるチャットGPTやGoogle birdを使いこなすためには、回答の正誤を判断する知識や問いを立てる力が必要であるが、高校生で十分にその力を持っている者は多くはない。失敗することも想定した上で積極的に使ってみて、生成AIに頼り切ることの問題や身につけるべき力を実感してもらうことが有効ではないか。
- 情報活用能力の育成という観点から禁止はしないものの出典を調べるであるとか、裏付けをきちんととると言ったことを必ずして、生成AIの言葉をそのまま書くことをしないように指導している。
- 利用する場合は、ChatGPTが作成したものを100%鵜呑みにすることがないように、複数の生成AIを活用したり、自分で調べるなどする必要がある。
- 制限はある程度必要だと思うが、思考する際の手がかりをつかむことや、生成AIが提案してきた答えが正しいのか誤りを含んだものなのかを調べるなどの活用をすすめるなど生徒の学習を深めるツールとして活用できるものと考えます。
- 特に画像生成等では著作権との関連で課題があることを言い添える必要があると思っています。

### ◆具体的な実践例

- 現在、英語版のchatGPTはかなりの完成度です。簡単な英文の添削、長いエッセーの書き換えなど、多少の癖はありますが、即座にfeedbackされ、書く力を伸ばせるかもしれません。
- 生徒の活用例：言語を英語設定にし、エッセイのお題を出してもらい、添削をしてもらっている。さらに同じトピックで違うお題を出してもらい添削してもらっている。
- ChatGPTやBardは言語の処理に抜群の有用性があるので、英語や国語の学習には積極的に活用するとよいと思います。英語では、ネイティブチェックの代替として英作文での活用が強力だと思います。また、音声認識を利用した英会話の練習も生徒に経験させたいと思っています。一方で、コンテンツに関しては正確性に疑いがあるので「従来の検索サービスの上位互換」というとらえ方は危険だと考えています。そうではなくて、利用者側が処理すべき情報を入力して、それを使いやすい形に整えてもらったり、自分では想定していなかった形に情報を変形してもらったりする使い方が良いように思います。

### ◆思考力や表現力などの低下につながる懸念

- 学生時代に安易に頼ると考える力が身につかなくなるのではないか。
- 生徒自身の主体的な独創的な考え方が阻害され 自分で考えて回答を導く力がなくなるのでAIの利用にはかなり留意すべきことが多い。
- 「ChatGPT等を利用してはならない」といった指導を（懲罰を伴って）行うことは、現実的ではないと思われる。反面、生徒が安易に依存することは、学習成果の低下につながる懸念もある。
- 自身のことを表現するには自分の言葉で語ることが必要だと考える。必要最低限での活用にとどめたい。
- 信憑性の判断ができなければ利用しない指導が必要だと思う。また、レポートなど自分の考えや言葉で作成しない者が増えるのが心配である。
- 基本的に生徒が生成AI（「ChatGPT」等のテキスト生成AIや、画像生成AI）を利用する以前に学ぶことがたくさんあり、そちらが優先されるべき。また、生徒がAIに依存する傾向が強まる恐れや自分で諸事に対する解決策を自分で考えなくなる可能性もある。

「業務効率化」「働き方改革」といった単語が多く、業務改善面での利用やその効果への期待が感じられる。また、英語の添削や授業などの教科指導、文書作成など、生徒の利用に比べて活用例が多く寄せられた。教職員は業務の中で実際に試したり利用したりしている様子がうかがえる。

### ◆業務効率化・働き方改革

- 定型的な仕事（文書の作成等）やひな形のないものから起こす等の仕事には効率化の点から望ましいと思います。生徒が使用する場合もそうですが、独自性を必要とされる仕事（例えば推薦書の作成など）において、バランスを取りながら活用できるかがカギだと思います。
- 使い方次第では「働き方改革」「業務効率化」につながるとされます（形式的な書類やサンプルとしての参考例での利活用）。まだAIのデータが少ないためか、的確に「求めている」回答例があらわれずに、一般的なネット検索や過去の文例等を参考にした方が早い状況が多いです。今後は、教員の作成書類、特に推薦書や評価書、シラバス、起案書、等々で一層利活用されることが大いに考えられます。
- 事務効率化等人間よりも正確かつ迅速に処理できる業務に関して積極的に活用すべきである。
- 事務的な内容の文章を作成する際など、場合に応じて使っていくことで、作業の効率化を図れるなら使うことに意味はあると考える。
- 文書作成や調査など、時間が短縮できる活用法が広がれば、業務も軽減されと考えます。
- 書いてあればいいような、書類や資料の下書きなど。ざっと作らせたものを手直しするとずいぶん時短になる。
- 便利であるならばどんどん活用すればよい。指導要録や推薦書などは省力化が図られよいのでは。
- 生徒があまりわからない分野についての概要を知る上ではスピード性が利点である。
- 作業効率をあげるために積極的に使ってみたい。

### ◆具体的な実践例（教科指導）

- 同僚が、英語のスピーキングテストの「質問」作りに利用していました。「そのまま」利用できるものばかりではなかったようですが、「アイデア」や「たたき台」としての利用であれば、役に立ちそうだと感じました。
- 積極的に授業に取り入れている方も増えてきました。英語の討論の際のモデル文やマクロのコードのエラーチェックなど様々な活用されているようです。
- 英語教員としては、ネイティブチェックの代わりに使っています。ChatGPTとBardに同じプロンプトを入力し、双方の出力を見比べながら、さらに、その出力に対するDeepL WriteやGrammarlyの反応も考慮しながら英文を作成しています。教科指導に関しえば、あえて生成AIの誤った出力を教材にした「間違い探し」のような学習活動は、いろいろな教科で可能かも、と思います。
- 本校の英語科教員で、chatGPT有料版を活用し、自らプログラムを組んで、英作文の自動添削システムを作成し、活用している教員がいる。このことで、演習回数を増やし、かつ働き方改革にも寄与できそうである。
- 論述問題を解かせて、悪例として紹介したり、要約させて、これも悪例として示している。有料版を使用出来ないで、この程度が限度である。国語関係では、まだ使い勝手が悪いと感じる。
- どんどん使っていくべきです。すでにKhan AcademyはKhanmigoを稼働させていてTutorの役割を担わせています。簡単に解答を与えず、解答のプロセスに沿って学習者をサポートするシステムです。このような形で生成AIが日本に入ってくることを前提に、活用方法を考えておく必要があると強く思っています。
- 物理の授業で、生成AIが提示した誤答を生徒に示し、どこが誤りか考えさせる実践を行っている教諭がいる。
- 今までは思考的なことに対してコンピューターが判断する事ができなかったで、生成AIを用いてそのような活用を考えている。例えば、探究の時間の際、「リサーチクエスチョンが適切かどうか」といった所は特定の教員しか見る事の出来ない内容だったが、それなりのプロンプトで生成AIに役割を担わせて、リサーチクエスチョンを判断させている。これにより、一般的に誤っているリサーチクエスチョンは生成AIではじいてもらう分、教員の負担が軽減する。生成AIで合格した者のみ、教員が見て最終チェックするといった形をとる。

### ◆具体的な実践（文書作成等）

- 案内状の書き方など非常に勉強になるし、考えをまとめるのには有効だと思う。
- 上手に使える会議資料の作成等で役立つと思いますが、どうしても生徒の個人情報扱うことも多く、安易に入力してしまう危険性も高いので、校務での利用は、当面は慎重にならざるを得ないのではないかと思います。
- 職場では、まず活用してみて現状を知ると言われています。だから、保護者あて文書作成を試みました。
- 忙しい職務にあって、利用できるのであれば、限定的に利用すればいいと思う。但し、大人においても、間違いチェックや、自分のスタイルにアレンジすることは必要であろう。実際に、PTAの会報に挨拶文を寄稿するにあたって、利用したことがある。このようなオプション的な仕事においては、個人的に有効であると考えている。
- 通知表や生徒指導要録などで、いわゆる所見の作成が簡単そう。プロンプトに当該生徒にかかるキーワードを箇条書きにして、文章に直してもらう。あとは表計算ソフトに貼り付ける。
- 保護者あての文章や学校行事の実施の目的などの文章構成に利用している。
- 働き方改革の一環として活用は必要だと感じる。案内文やあいさつの文作成、授業についてのヒントを集める。
- 試験やプリントなどの作問等をする際に、自身の英語をチェックしてもらう。
- 教職員が利用するのは否定的ではない。活用例としては内容一致系の問題作成などに使用している。
- 推薦入試や総合型選抜の指導における文書作成などで利用できるかもしれない。何事においても、もがいたりしながら完成されていくという価値観が失われていく可能性がある。

## 河合塾「Kei-Net Plus 教育関係者のための情報サイト」のご案内

URL <https://www.keinet.ne.jp/teacher/>

- 最新の教育情報、独自のインタビュー記事、イベントの案内を随時配信中
- ニュースレター会員募集中

- ◆ 本資料の内容の無断転載・複製を禁止します。
- ◆ 本資料に関するお問い合わせやご意見は、こちらまでお寄せください。

学校法人河合塾 教育研究開発部

Email [keinet-plus@kawai-juku.ac.jp](mailto:keinet-plus@kawai-juku.ac.jp)